

「日本で実現」期待



東北誘致



シエルドン・グラシヨウ博士

パリイ・パリッシュ博士

ILC計画の日本での実現を強く訴えるパリイ・パリッシュ氏(左)とシエルドン・グラシヨウ氏(右)5日、東京都文京区・お茶の水女子大

東京でシンポ ノーベル物理学賞2氏

政府に決断を迫る

【東京支社】宇宙の謎に迫る国際リニアコリナイター(ILC)の計画実現に向けた国際シンポジウム「ノーベル賞受賞者に聞く ILCが開く科学の未来」は5日、東京都文京区のお茶の水女子大で開かれ、ノーベル物理学賞を受賞したシエルドン・グラシヨウ氏、パリイ・パリッシュ氏(米国)が講演した。両氏はILC建設に伴う科学的意義や多分野への波及効果を強調。国際プロジェクトとして「日本で実現を」と早期に前向きな姿勢を示すよう日本政府に決断を迫った。【特集14面】

高エネルギー加速器研究機構(KEK、茨城県)などが端緒を与える可能性があると指摘。「大きな発見の可能性がある装置であり、間違いなく世界的な研究機関に発展する」と強調した。パネル討論では両氏が基礎物理学の必要性などを解説し、中高生らに学ぶ意義を説いた。

ILCは本県の北上山地(北上高地)が世界最有力の建設候補地とされる。今月中の研究者が集まり、多様な技術や知識が持ち込まれる。近い将来の建設決定を日本に期待する。求めた。グラシヨウ氏は、宇宙を説明する基本的な法則となる現在の標準理論では説明